



**発行**  
 2017年1月1日 第108号  
 社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館  
 発行人/ 湧井 規子  
 編集人/ 佐藤 明裕  
 〒457-0805  
 名古屋市中南区三吉町6丁目17番地  
 TEL/052-612-3370 (本部)  
 FAX/052-611-9085  
 URL/http://shakaikan.com  
 E-mail/honbu@shakaikan.com

# 盛況御礼 広げよう!地域の輪 社会館バザー2016

「神の業がこの人に現れるためである。」 (ヨハネによる福音書9章3節)

## 新しい年を迎えて

旧年中は大変お世話になりました。たくさんの方々につながって支えられ、「社会館」の仕事が積み上げることができました。心より感謝を申し上げます。新しい年もご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

### 「私の安心」と「人類の幸福」

道を歩いていると、「湧井先生」と声をかけた人がいました。グループホームで仲間とともに暮らしているAさんです。思わず握手。彼女は、障害を持っていますが、理解ある職場で掃除の仕事をしていて、彼女は仕事の帰り道。私には用事で出かける場所でした。「お疲れ様でした」というと「先生はこれからなの?じゃあ、がんばってね」と、私をしっかりと見つめて笑顔で励ましてくれました。心からの励ましを感じた私です。どうしてこんなに気持ちの良い言葉かけができるのだろうと思いました。相手に心地よい言葉かけは、誰でもできるようなかなか難しいものです。ハンディがあり苦労もあつただろうに、こういう体験を積み重ねてきたのかと考えました。彼女に「人とつながる安心」があり、「人の気持ち悪い困る心の動き」があるのは、彼女が体験した人との関わりから育まれた人格です。これまでに、目をじっと見つめて彼女の話を聴き、励まし、気持ちを分かってくれた「人」が何人もいたのだろうと推測します。

「義だ」と本気で考えていました。「弱い立場にある者を排除する優生思想」の背景にある「効率至上主義の新自由主義の現代社会」をよく見つけたいといけません。考えさせられています。「弱い立場にある人間が、より弱い人間を攻撃してしまふ、そういう動き・エネルギーを広げてはいけないと思います。「弱さ」は人間につきものです。「いのち」の尊厳は同じです。「いのち」に序列はありません。一人ひとりにある「生存権」に違いはありません。このことを身近な人との関わりや仕事において表現していくことがとても重要な時代だと思っています。

私たちは、どんな「安心」を求めているのでしょうか?市場原理が最優先で所得格差が広がる日本、戦争をする国になろうとしている日本、「原発」にさらに依存しようとしている日本において、「安心」を求めて経済的利益最優先の政治が行われています。経済の安定は重要ですが、難しい世界情勢です。そして、経済さえ良くなれば幸せになれるというのは幻想のようです。

「私たちが求める「私の安心」も「人類の幸福」も身近なところにあります。日本の社会で重要なことは、憲法に定められた私たちの権利保障を正々堂々と行政・政治家に求め続けることと同時に、社会福祉法人として「私の安心」と「人類の幸福」につながる社会福祉実践を積み上げていくことだと、心を強く引き締められる新年です。

**発展は人類の幸福をもたらすものでなくてはならない**

昨年、障害者施設で十九名の障害を持つ方々が殺された凄惨な事件が起き衝撃を受けました。殺人を犯した青年は、「重い障害を持つ生産能力のない者は、「国家の敵・社会の敵」であり、殺すことが正

「私たちが求める「私の安心」も「人類の幸福」も身近なところにあります。日本の社会で重要なことは、憲法に定められた私たちの権利保障を正々堂々と行政・政治家に求め続けることと同時に、社会福祉法人として「私の安心」と「人類の幸福」につながる社会福祉実践を積み上げていくことだと、心を強く引き締められる新年です。」

「私たちが求める「私の安心」も「人類の幸福」も身近なところにあります。日本の社会で重要なことは、憲法に定められた私たちの権利保障を正々堂々と行政・政治家に求め続けることと同時に、社会福祉法人として「私の安心」と「人類の幸福」につながる社会福祉実践を積み上げていくことだと、心を強く引き締められる新年です。」

「私たちが求める「私の安心」も「人類の幸福」も身近なところにあります。日本の社会で重要なことは、憲法に定められた私たちの権利保障を正々堂々と行政・政治家に求め続けることと同時に、社会福祉法人として「私の安心」と「人類の幸福」につながる社会福祉実践を積み上げていくことだと、心を強く引き締められる新年です。」

**名古屋キリスト教社会館の使命**

名古屋キリスト教社会館は、創立の精神に基づき、次の使命を担います。

1. すべての人々がかけがえのない存在として人権が保障され、自立した人間として成長していける社会を築くことをめざします。
2. 隣人とのふれあい、ふれあい、そだちあいを大切にし、ともに地域の課題を担うことを通じて福祉の輪が広がるように努めます。
3. 世界の人々との交わりを通して、福祉社会の実現のために働きます。

監事	評議員	理事	常務理事	顧問
湯浅 登	井戸田 真	池田 規子	朝比奈 晴朗	池田 規子
仲田 輝	石橋 尚子	湧井 規子	谷川 修	池田 規子
磯部 徹	小早川 弘江	長田 圭子	加藤 直子	池田 規子
加藤 淳	下妻 幸美	内藤 義三	近藤 直子	池田 規子
荒川 和子	小早川 弘江	田中 誠	柴田 謙治	池田 規子
渡辺 紀久子	小早川 弘江	白石 淑江	近藤 直子	池田 規子
松岡 まり子	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
中村 隆	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
鳥井 一夫	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
武田 美和子	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
佐藤 康光	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
佐藤 智子	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
杉江 幸茂	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
小宮 一子	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
小林 考一	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
加藤 考一	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
笠嶋 泰	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
岡村 恒義	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子
井戸田 真	小早川 弘江	白石 淑江	加藤 直子	池田 規子

謹賀新年



コミュニティケアセンター部

地域に根ざす保育園・学童保育所として

子ども・子育て支援新制度が施行され二年が経過しようとしています。

従来の保育園・幼稚園に加えて様々な保育事業が展開されるようになり、またが保育園の待機児童は九・一万人、学童保育の待機児童は一・五万人とされています。



担当子どもたちが、かけがえのない存在として成長発達保障される為に、要求を受けとめ実現する大人の存在が不可欠とされています。

今年の十一月六日(日)「ちどり児童会」は「五十年周年記念、学童まつり」を行いました。恒例の「学童まつり」には千鳥・白水・柴田・星崎学区からも多くの子ども達も参加し、コマ・けん玉等学童の遊びを楽しんでいました。

時から児童として、保護者として活躍していただいた多くの方々が集い、当時のエピソードに笑顔の花が咲きました。

同じく十一月十二日(土)には十二月で開所五年目を迎える「みどり菜の花保育園」が父母会や「みどりそよかぜ」と共催して「第四回みどり元気まつり」を行いました。卒園児を始めとして四年間の中で在籍されていた四十世帯にご案内を送付し、半数近い方々から近況報告の返信と当日の参加がありました。

さらに十一月二十三日(祝)の「社会館バザー」では、菜の花保育園を卒業した子どもたちが小学生・中学生・高校生となり、「卒業したら保育園で仕事したい。」と嬉しい報告もありました。私たちは皆さんが保育園や学童保育所で過ごした日々を振り返り、いつでも立ち寄る事が出来る場所でありたいと思います。今年も皆さんとの再会を楽しみに、どうぞよろしくお願い致します。

(みどり菜の花保育園園長 富田千栄子)

気がねなく、当たり前前の福祉をもとめて

たくさんの方々のお力で、二〇一六年四月、「小規模多機能つどい」が誕生しました。

送迎車は早いときには七時三十分にはお迎えに行きます。「つどい」で朝ご飯を食べていただく方もいます。一人で食べる夕食はさみしいものですが、「つどい」で皆で食べる夕食は美味しく、楽しいようです。家族の出張の時は、一週間お泊りの方もいました。

「うちに帰りたい、うちがいい」とおっしゃる方には、一緒にお家で家族の帰りを待ちます。日曜日の支援も始まりました。ケアマネージャーは、その人、ご家族が求める支援を受け止め、その支援の在り方に奔走しています。職員は、アタフタとしながらも、真摯に向き合っています。この国の高齢者福祉が、一歩進んだと、実感しています。

働き続け、困難な時代を生き続けてきた高齢者の方々の、いのちや尊厳を大切にできる社会を求めて、まさに、私たちの事業が問われているなと感じる一年でした。

高齢者をとりまく情勢は厳しく、働く職員の処遇も決して良くはありません。

しかし、どんな風が吹こうが、私たち福祉に携わる者たちが、「人間の尊厳」を求め、歩み続ければ、道は続くと思っています。

気がねなく、当たり前前の福祉をもとめて、二〇一七年新しい年を皆さんとともに歩き続けます。

(高齢部部長 小早川 弘)



コミュニティケアセンター部責任者一同

- センター長 小早川弘江
加藤 好美
富田千栄子
柏本多恵子

支援センター部

「このまちと暮らしたい」

西館二号館建設計画



西館一館の西隣に、障がいのある仲間たちが地域で安心して暮らしていくための拠点を、つくる計画をすすめています。

部では、障がいのある青年たちが、地域の中で自立した生活ができるように、グループホーム、日中活動の場、休日の余暇支援をするヘルパー利用、家族と離れて生活する体験の場としてのショートステイ、困ったことを相談できる相談支援などの事業を行っています。

南区は、名古屋市中でも高齢化が進む地域です。四十代～五十代の障がいのある方たちが、七十代～八十代の家族と暮らしているという家庭も多くいます。いつまでも家族と一緒に暮らしていくということにも限界があります。

とはいうものの、一人暮らしをしたいと思ったり、グループホームで暮らしたいと思ったりしても、障がいのある人たちにとっては、場所と人(支援者)が限られていて、そんなに簡単にできるものではないかもしれません。いろんな暮らし方を経験する中で、自分らしい暮らし方を見つけていかなくてはなりません。

行政も、地域生活支援拠点という障がいのある高齢化に対応し、地域で暮らす拠点をつくっていくことを進めています。全国ではこのモデル事業もすすんでいます。

支援センター部としても、障がいのある方たちの支援をより手厚く進めていきたいと考えています。西館二号館が地域生活支援拠点として、地域の中で暮らしていきたいと願う仲間たちの支えになるように、職員、家族会が先頭に立ちこれからこの計画を進めていきます。

二〇一七年度には補助金の申請をし、二〇一八年度に建設、二〇一九年四月開所予定を目指しています。(活動センターねーぶる 施設長 江尻 覚)

支援センター部責任者一同

- センター長 谷川 修
江尻 覚
神谷 友之
木下 敬成

このまちと暮らしたい ~西館2号館~
障がいのある人たちが、地域に根ざし、地域の方々と共に、安心して暮らしていけることを目指します。
3F ヘルパーステーションびほっと
2F ショートステイびほっと
1F ホーム社会館(グループホーム)

東部発達センター部

顔の見える関係づくりをめざして

二〇一四年六月に千種区猫洞通の地に「東部地域療育センターぼけつと」がオープンして、二年半が過ぎました。二〇〇三年から守山区で事業を展開してきた「発達センターちよだ」とともに、「東部発達センター部」として、発達や育ちに心配を抱える親子への相談・支援に日々向かっています。相談・医療・療育事業や地域行事を通し、地域の皆様や関係機関の皆様にも、少しづつ「ぼけつと」の存在を知って頂けてきているのではと感じています。

日々通う場である通園部では、発達センターちよだは二十一名、ぼけつとは四十一名の子どもたちが、寒さに負けず元気いっぱい太陽を浴びながらあそんでいます。これからは年度のとめの時期になるので、子どもたちの一年の成長を保護者の方たちと確認しながら職員全体で向かっていきたいと思っています。

東部地域(千種・守山・名東区)は、乳幼児(〇〜五歳)の子どもたちの人口が、名古屋市中でも最も多い地域です(全体の二十四・二%)。そのためか、名古屋市内五か所(中



央・東・西・南・北)の療育センターの中で、初回相談数や就園前の親子グループ(療育グループ)参加数等は最も多く、利用される子どもさんや保護者の方たち、また関係機関の皆様には、かなり待っていただいたり要望にお応えできないことも多く、ご迷惑もおかけしている現状もあります。

二〇一六年、多くの出会いと別れがあった一年でした。二〇一七年、また新しい年の始まりです。開所してからこれまで、自分たちの目の前で、少しでも外に目を向け、周囲の状況をしつかりとらえながら、地域の方々や関係機関の皆様と『お互いに顔が見える関係づくり』に努めていきたいと思っています。

(東部地域療育センターぼけつと) 相談診療部長 松澤裕美子

東部発達センター部責任者一同……

- センター長 加藤 淳
荒川とよ子
福武 馨
松澤裕美子
小原 貴史

南部発達センター部

そよ風開設二十年、おひさまを守る運動から十年。そして、あつたの未来へのスタート

更なる療育システムの向上を

昨年南部地域療育センターそよ風(以下、そよ風)は、開設二十年を迎え、四月の西館オープンに伴い通園部の定員が十名増となり五十名定員での新たな事業展開をスタートさせることができました。その結果、およそ十年ぶりに一才児も入園することができ、「発達センターあつた」(以下、あつた)も含めて名古屋市南部地域(南区・緑区・熱田区・瑞穂区)の待機児が解消されました。これは二十年前の「名古屋地域療育センター構想」において目標にしていた、〇・一才児からの早期療育の実現が達成されたことであり、大変喜ばしい事です。一方名古屋市東部方面では今年度十名を超える二才児の待機児が生じています。名古屋

市全体を見た時には、通園療育を必要とするすべての子どもたちが入園できる早期療育を進めるため、更なる療育システムの向上と構築が求められています。子どもたちの権利を守る

二〇〇六年十月にあつたの園庭南側に高層マンションの建設計画が突如持ち上がり、園庭におひさまがあらなくなる事態に出会い、親たち・職員等多くの人たちとの協働のもと粘り強く、子どもたちの日照権(発達権)を守る運動をすすま



た。この計画は当時の経済状況も影響し中止。そしてその土地を名古屋市が取得したお蔭で、その後おひさ

まが奪われる心配がなくなり、子どもたちが毎日気持ちよく園庭で遊べる環境が保障されました。そして日照権を確保す



るための名古屋条例の対象施設に障害児施設も加えられるという大きな運動の成果を成し遂げました。あれから十年。子どもたちが豊かに発達するための権利は大人が守るという姿勢は、今、民間児童発達支援センターに通う子どもたちの療育を受ける権利を大きく脅かす運営費補助金問題への運動にも貫かれています。あつたの未来を描く

あつたは、築四五年が経過し老朽化が進んでいます。名古屋市は平成三十年以降の子ども発達支援推進指針(仮称)に老朽化対策を盛り込む必要性を位置付けています。これまでのあつたの働きを通し、老朽化対策のための単なる改修に終わらせるのではなく、求められる療育ニーズにしっかりと応えることができる将来計画の検討、具体化に一步踏み出す年にしたいと思っています。本年もご支援、ご協力をお願いいたします。(発達センターあつた園長 安藤 典明)

南部発達センター部責任者一同……

- センター長 下妻 幸美
堀江 重信
金武 勝己
佐藤 明裕
矢形 進
安藤 典明

聖書の言葉 「神の業がこの人に現れるためである。」 ヨハネによる福音書 九章三節

生まれつき目の見えな人を見て、弟子たちはイエス様に尋ねました。「だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか」と。聖書の書かれた時代、病や心身の障がい、本人や家族が犯した罪に対する神様の罰だとされていたのです。

人間に悲しみをもたらす出来事は、すべて過去の悪い行いの結果とされる「因果応報」の考え方は、今も私たちの日常生活の中に根強く生きています。現在の障がいを、過去の罪の行き着く先(終点)としか見えない弟子たちの誤った考え方からの問いかけです。イエス様は答えられました。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯した罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」

「私たちへのエール」

一絆のロープ

さんでしたが、盲学校で陸上と出会い「目が見えなくても走れる」ことを教わり、マラソンを始めたいです。ところが、次々と大きな大会で記録を伸ばし、今回の銀メダルにつながりました。私たちにこそかかる病や心身の障がいは、試練であり、苦勞をもたらすことであっても、決して不幸なことではないと、美里さんのマラソン人生を通じて教えられます。また、このような視覚障がいへの選手には必ず伴走者がついていて「絆」と呼ばれる五十cmのロープでつながっていることを知り、感動を覚えました。

イエス様は、障がいの現実を、決して罪の結果ではなく、それぞれが神様の業の始まる出発点(起点)と宣言されました。イエス様は私たちの過去を見ておられません。いつも、未来を見つめておられます。

新しい年も、社会福祉の現場は厳しい風が吹くことと思われま。しかし私たちは諦めることなく、ここから神様の素晴らしい業が起こると信頼して、人と人との絆のロープをたくさんつなげることでできる働きへと向かいたいと思います。(チャプレン 杉本美由紀)

今年のリオパラリンピックの視覚障がいの女子マラソンで、日本の道下美里選手が見事銀メダルに輝きました。二十代半ばで両目を失明して当初ふさぎこんでいた美里

報告

◆『学童まつり、大盛況でした！』

11月6日(日)に「ちどり児童会50周年記念学童まつり」を開催しました。

毎年恒例のあそびコーナーのスタンプラリーには、地域の小学生をはじめ、幼児さんたちも親子であそびに来てくれました。

50周年記念の企画では「日本独楽博物館」の方に、こまやけん玉の演技を披露してもらいました。難しい技の数々に子どもたちは感動し、こまやけん玉のコーナーには、多くの子どもたちが意欲的にあそび、なつかしそに一緒にあそび大人の姿も見られました。

同窓会は、世代をこえて和気あいあいとした雰囲気、[今後も学童のために何かしたい][次は55周年が楽しみ!]という声があがっていました。これまでの歴史と、学童に対する愛着がたくさんの人たちに受け継がれていることに感激しました。

当日の参加は学童の親子、スタッフ、OB・OB父母も含め、約400名の人。あらためて、たくさんの人たちのつながりや支えがあってこそ!の学童だと実感するとともに、みんなに愛される学童保育として地域の中に根ざしていけるよう、日々の積み重ねを大事にしていきたいと思ひます。(ちどり児童会 楠木 徹)



◆西館合同芋ほり会

11月15日西館の芋ほり会が行われました。菜の花保育園、療育センターそよ風の子どもたちと、小規模多機能つどいの利用者さんが西館の畑に春に植えたサツマイモほりを楽しみました。つどいの皆さんは、「昔このつるの煮たものがごちそうだったわ」と話していました。子ども達は畑の土を一生懸命に掘って、イモが見えてくると眼を輝かせてイモを引っ張っていました。イモよりも葉っぱについている虫やダンゴ虫に夢中になって取っている子もいて、色々な年齢の皆さんが楽しみました。掘ったイモは焼き芋やおにまんじゅうでおいしく食べました。



0歳から98歳までの世代が芋掘りなどを通じて同じ行事を行えるのが西館の特徴になっています。(小規模多機能つどい 長坂保伸)

◆めぐり会いの会 ふるさと祭も煮会

11月20日 発達センターあつたにて

東日本大震災による県外避難者のつどいも煮会が開催されました。5年目を迎え、メインのいも煮、なみえ焼そば、焼き肉におにぎり、ラーメンと盛りだくさん。お腹いっぱい食べ、郡山出身のマナマさんによるダンスと体をほぐすワークショップとほっこりゆったりとしたつどいとなりました。今年は被害を受けた方も様々な想いを抱えながら福島に戻られた方もいらっしや、参加者がぐっと減りました。しかし、これからの支援の在り方を考え、震災による被害がまだに先が見えないことに思いを寄せながら、ささやかな支援ではありますが、今年も協力していただいた県支援センター、YWCA、アーチしばたの方々と共に、楽しく心温まる交流の場を大切にしていきたいと思ひます。(事務局 渋谷 文平)



◆みんなで祝うクリスマス

12月3日(土)、社会館ではひと足早いクリスマスのお祝いをしました。大きなスクリーンに映し出されたクリスマスの絵本、チャレン杉本先生からクリスマスのお話、そしてピアノとバイオリンの演奏に心温まるひと時を過ごすことができました。

演奏会では、ピアニストの高由美さん、バイオリニストの矢田麻子さんお二人が素敵なお話で登場。「きよこの夜」、「天空の城ラピュタ」など美しい調べに癒されました。「情熱大陸」というテンポのよい曲は子どもたちも鈴やタンバリンで参加し、大いに盛り上がりしました。最後は美味しいシュークリームでティータイム。参加した小さな子どもさんが「ミンナトッテモウレシイカオシテルネ!」と話しかけてくれました。地域の方だけでなく、遠くは守山区のご家族も含め106名も参加していただき、楽しいクリスマス会でした。



(ミッション委員会 福武 馨)

2016社会館バザーへのご協力ありがとうございました。今年度は「広げよう!地域の輪☆社会館バザー2016☆」をテーマに、11月23日(水・祝)社会館バザーが盛大に行われました。今回のバザーでは、模擬店会場を園外に設け、会場を2つに分けるという新たな試みを行いました。「場所が広くなったことで人が分散され、移動しやすく見やすかった」「分かれたことで、中央舞台あまり見えなかった」など様々な意見をいただきました。いただいたご意見を、また来年度に活かしていきたいと思ひます。最終収益は1,112,274円でした。目標の100万円を大きく超える収益となりました。この収益は、西館二号館(障がいのある方のグループホーム、ショートステイ、ヘルパーステーション)の建設資金、ユニセフへの寄付として使わせていただきます。ご協力ありがとうございました。

チャリティー公演のご案内 西館建設2号館の建設資金づくりのため、チャリティー公演を企画しています! 皆さんおなじみの「むすび座」! 演目は「アラビアンナイト~魔法のランプと明日のヒカリ」 2017年7月9日(日) 午後予定 開場:名古屋芸術創造センター チケット発売は2017年4月(予定) 3000円前後(予定) 強大な力を持つ大魔神と力はないけど何かを予感させる可愛らしい小魔人。会場いっぱいに繰り広げられるダイナミックな人形の動き! 各年齢層で楽しみどころ満載の大人形活劇です! 主催/名古屋キリスト教社会館チャリティーコンサート実行委員会

第21回全国地域福祉施設研修会 日時 2017年2月17日(金)13時~18日(土)13時 会場 日本福祉大学東海キャンパス(東海市太田川駅前) テーマ 「セツルメントを語り、地域福祉を学ぶ」 1日目 基調報告「震災と福祉 昔・今」 伊勢湾台風救援活動から生まれた名古屋キリスト教社会館のはたらき他 分科会(種別とテーマに沿った6分科会) 2日目 記念講演「コミュニティカフェと地域福祉」倉持香苗氏(日本社会事業大学) シンポジウム「コラボで創る地域福祉」 まとめ・メッセージ 横須賀基督教社会館 岸川洋治館長・阿部志郎会長 東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや2017 日時 2017年3月11日(土)午後~夕方 場所 栄久屋大通り公園 ※社会館も、実行委員会の構成団体で、今回は事務局を担っています。

第57回イースター早天礼拝のご案内 イエス様の復活をお祝いいたします。どうぞお出かけください。 日時 2017年4月16日(日)午前7時~8時 場所 日本バプテスト連盟 名古屋キリスト教会(地下鉄 今池下車)

昨年「今年の漢字」に選ばれたのは「金」。オリンピックの金メダルラッシュや政治資金問題など、良い事も悪い事も含めて金という字が選ばれました。当法人の南部発達センター部や東部発達センター部の運営において、事お金という事になると、とても厳しい昨年でした。しかし私たちが、当法人を利用して下さる方々や職員、そして地域の方々が豊かに育ち、安心して暮らせるための福祉の在り方を求めていきます。厳しい姿勢で行政と対峙する決意に、身が引き締まる二〇一七年のスタートです。(A.S)

苦情申し出の窓口 苦情の申し出窓口は、各事業所掲示板等に掲示しています。苦情受付者は主任、解決者は事業所長が基本です。 法人への苦情は、 本部事務局 612-3370 へお願いします。 また、法人職員ではなく、第三者の立場として苦情を受け、より良い解決へと導く立場の者として、第三者委員を選任しています。 第三者委員は、 仲田 伸輝 821-0570 小林 冴子 611-0401 湯浅 登 0562-83-4407

献金・協賛報告 芳名を掲載し、報告とお礼とさせていただきます。(敬称略・順不同) 二〇一六年十月十九日、十二月九日まで (一般寄付) 平岩定法・武田美和子・真木芳子・仲田忠夫・岡山弘・天野伊津歌・植田望・加藤三千男・岩月彰枝・富島照男・(衛)エイチツロー・工川謙治・蟹江範子・村田登代・土岐篤史・梅津ヨシ子・熊田賦・藤瀬房子・高登希江・日本キリスト改革派八事教会・日本聖公会聖マタイ教会・岡村恒義 (震災支援指定) 瀧川裕康・杉浦ミドリ・岩田悦・須藤昌子・鶴田吉和・佐竹敬子・古澤佐典 (西館建設指定) 海老原一・ISSYIO株式会社・岡岳淳一・山口千恵子・友井田兼廣・岡山政幸・川口信乃・友井田りつ子・津田昌典・安藤京子・吉田正樹・真木芳子・佐藤康光・金森千佳・丹波雅弘・仲田忠夫・田畑洋子・大原恭介・黒越陸子・森絹代・尾関明・宮本貴夫・杉江幸茂・杉本節子・荒竹ひろみ・植田望子・瀧川裕康・鈴木裕子・近藤京子・勅使千鶴・久保寺迪子・近藤よし恵・鳥井一夫・長田圭子・宇佐美照子・近藤直子・江尻房子・久野あかね・下村徹嗣・稲垣翔太・杉本美由紀・長田悦・松井香里・宇田哲也・岩田悦・上田陽寿・(衛)エイチツロー・工川謙治 (クリスマス献金) 安藤京子・武田美和子・真木芳子・佐藤康光・仲田忠夫・田畑洋子・志村澄江・大原恭介・黒越陸子・森絹代・尾関明・杉本奈津江・小林恵美子・遠藤和弘・林あさ子・中村紀子・岩田悦・蟹江範子・大西寿次・河野喜子・オリエ・山口政広・株式会社八勝館・杉浦典男・藪勝也・鶴田吉和・古澤佐典・高着登希江 (FUKUSHIMAフラッシュキャンプ指定) 東部地域療育センターばけつと分会